

平成27年度 上河内中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

【校是：よく学び よく鍛えよ】

☆ めざす生徒像

- ・ 学び鍛える生徒
- ・ 自他を尊ぶ生徒
- ・ 気力あふれる生徒

☆ めざす教師像

- ・ 愛と情熱にあふれる教師
- ・ 研きあう教師
- ・ 実践する教師

☆ めざす学校像

- ・ 楽しく学びあえる学校
- ・ 協に伸びる学校
- ・ 信頼される学校

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- （1） 生徒の「生きる力」を育成するために個に応じた教育を進め、地域に根ざした活動を展開し、豊かな人間性、確かな学力、健康や体力の育成に努める。
- （2） 教育目標の具現化をめざし、全教職員が意欲と使命感を持って学校経営に参画し、生徒や保護者等の信頼や期待に応える学校づくりに努める。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1） 学力の向上をめざして
 - ・ 魅力ある（わかる・できる・つかう・つくる）授業の実践
 - 基礎的・基本的な事項の確実な定着と知識・技能を活用する学習活動の充実
 - ・ 主体的に考え表現できる生徒の育成
 - ・ 時間を上手に使う意識の醸成と家庭学習の充実
- （2） 豊かな心の育成をめざして
 - ・ 体験活動を踏まえた道德教育の推進
 - ・ 心に響く道德の授業の工夫
 - ・ 教育環境の整備と充実（見て、聞いて、活動して、考えさせる環境）
 - 夢と希望に向かって力強く歩む生徒の育成（よさの伸長・自信の育成）
- （3） 健康と体力の増進をめざして
 - 食育等の健康教育の推進
 - ・ 進んで運動に取り組む生徒の育成
 - ・ 部活動の充実
- （4） 特別支援教育の充実をめざして
 - ・ 障がい特性の理解と適切な支援方法の獲得
 - ・ 校内支援委員会を中心とした組織的な支援の工夫
 - ・ 保護者や関係機関と連携した支援
- （5） 教職員としての資質・能力の向上をめざして
 - ・ 授業力向上プロジェクトの研究テーマにそった授業公開による授業力と同僚性の向上
 - ・ 全校体制での授業研究の実施と現職教育の充実
 - ・ 教職員個々の目標を明確にした職務の遂行
- （6） 保護者・地域との連携強化をめざして
 - ・ 地域に開かれ、愛される学校づくりの推進
 - ・ 地域の教育力の積極的な活用と地域とともにある学校づくりの推進
- （7） 小中一貫教育と地域学校園の取組の充実をめざして
 - 小学校と連携した上河内地域学校園としての活動の推進
 - ・ 運営会議・部会・分科会・教科部会における取組の検討と拡充

【上河内地域学校園教育ビジョン】

たくましいゆずっ子の育成

～基本を身につけ、人とつながり、夢に向かって生きる子どもを育てよう～

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】	・生徒一人一人を大切にし、個に応じた教育の推進 ・教職員としての資質、能力の向上をめざした取組の実施
【学 習 指 導】	・確かな学力を身につけ、主体的に考え表現できる生徒の育成 ○・小中相互乗り入れ授業を通して、地域学校園としての授業のあり方研究
【児 童 生 徒 指 導】	○・基本的な生活習慣を身につけ、ルールを守って行動する生徒の育成 ・体験活動を踏まえた道徳教育の推進
【健康（保健安全・食育）・体力】	○・地域の特色を生かした食育の取組 ○・体力増強、健康増進の取組 ・生涯にわたって自ら積極的に健康な生活を営む生徒の育成

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケートの「私は、今の学校が好きです」⇒生徒の肯定的回答 90%以上	①入学式、卒業式を中心とした生徒主体で心を揺さぶる厳粛な儀式を実施する。 ②諸活動における生徒の自主的活動の場や機会を意図的に推進する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は91.0%(昨年度より0.6ポイント↓)で目標を1.0ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学校行事や生徒会活動の目的や趣旨を十分理解させ、さらに充実させられるよう生徒に考えさせる機会を数多く作り、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるような集団づくりに取り組む。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」⇒生徒の肯定的回答 90%以上	①校内研修の充実、校外研修の共有化を図りながら、実践する教師を目指す。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は93.0%(昨年度より0.7ポイント↓)で目標を3.0ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・校内公開授業（一人一授業）や各種研修会で学んだことを生かし、さらに授業を工夫・改善する。 ・生徒に関する情報交換を密にし、協力体制の中で、より個に応じた支援を行う。
	A 3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒生徒の肯定的回答 80%以上	①継続的な日記指導により、生徒の立場に立った共感的な理解と対応を行う。 ②生徒と対話のできる関係と雰囲気づくりを推進する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は85.9%(昨年度より3.2ポイント↑)で目標を5.9ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・スタンダードダイアリーを継続的に活用し、今後も生徒一人一人に対して、丁寧な指導に当たる。 ・生徒との対話が推進できる雰囲気づくりを行う。

A 4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒生徒の肯定的回答 80%以上	①個を大切にした少人数指導の工夫と、特別支援教育の推進を行う。 ②課題について、生徒が十分に考える時間の確保を図る。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は89.1%(昨年度より1.8ポイント↑)で目標を9.1ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・「分かる・できる授業」「活気あふれる授業」をめざし、指導法の改善に努める。 ・「表現力を高め、自分の考えを伝え合う授業」をテーマとした「一人一授業」を実践し、個々の教員の授業力向上を図る。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に教えてくれる」⇒生徒の肯定的回答 80%以上	①学校いじめ防止基本方針を徹底する。 ②職員間の「ホウ・レン・ソウ」をしっかりと行い、防止対策・初期対応を丁寧に実施する。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は86.3%(昨年度より4.0ポイント↓)で目標を6.3ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒指導だよりや各学年の保護者会などを通して、HPにも掲載されている「学校いじめ防止基本方針」の趣旨やいじめ防止のための具体策を保護者、生徒や地域に伝える。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている。 【数値指標】全体アンケートの「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	①生徒・保護者・教職員による授業・行事の評価を実施し、課題について改善を図る。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は96.5%(昨年度より1.1ポイント↓)で目標を6.5ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学年主任会、校務運営委員会、職員会議を効率良く運営し、共通理解や学年間の連携を深め、日課・授業・学校行事等を教育課程に基づいて適切に運用する。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①学校、学年、学級だよりによる適切な情報発信と、定期的な発行を行う。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は92.1%(昨年度より2.3ポイント↓)で目標を12.1ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・各種だよりの発行やHPの更新を通して積極的に情報の発信に努める。 ・保護者会時に授業参観を実施し、生徒の学習状況を実感してもらう。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①上河内中学校地域協議会の効果的な活用を推進する。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は87.4%(昨年度より2.8ポイント↓)で目標を7.4ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・これまでと同様に、上河内中学校地域協議会と連携し、地域学校園の諸活動と関連させながら、地域人材を活用した諸活動を推進する。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、清掃がしっかり行われ学習しやすい」⇒生徒の肯定的回答 80%以上	①清掃・美化活動の充実を図るとともに、教室・校内の掲示物の整備をする。 ②施設・設備の点検・修理を迅速に実施する。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は91.8%(昨年度より6.1ポイント↑)で目標を11.8ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒会活動を活発にさせることで、普段の学校生活の中で自分たちの学校を自分たちで美しくするという意識を啓発していく。

		B 1 学校全体で心の教育の充実に努めている。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、思いやりをもって生活している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①道徳の授業の充実を図る。 ②教員間の連携を密にし情報交換を行う。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 81.6%(昨年度より 3.2ポイント↓)で目標を 1.6ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・教育相談・特別支援教育部会やその他の話し合いでの情報交換で使用した資料を有効活用する。 ・「道徳の時間」の指導の在り方を改善する。
教育活動の状況	生活	A 10 生徒は、進んであいさつをしている。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①生徒会や全教職員・PTAによるあいさつ運動を推進する。	A	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 75.9%(昨年度より 1.4ポイント↓)で目標を 4.1ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・あいさつ運動の実施方法を工夫する。(実施時間、場所、部活動を利用するなど)
		A 11 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①時と場に応じた言葉遣いができるように指導の工夫を図る。	A	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 70.3%(昨年度より 2.4ポイント↓)で目標を 9.7ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・小中一貫教育学校生活適応部会で話し合いをもち、小中学校合同で協力して実践する具体策を検討する。
		B 2 生徒指導の充実・強化に努めている。 【数値指標】全体アンケートの「教職員はよいところは認め指導すべきことはしっかり指導している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①基本的な生活習慣の確立を目指した指導の充実を図る。 ②生徒の規範意識を育成する指導の充実を図る。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 82.4%(昨年度より 3.7ポイント↓)で目標を 2.4ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・全教職員が情報交換を密にし、共通理解を図るなど、協力体制を強化して指導に当たる。
	健康・体力	A 12 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、休み時間や放課後などに積極的に運動している」⇒生徒の肯定的回答 70%以上	①昼休みの体を動かした過ごし方について生徒会を中心に話し合い、ルール決めや、スポーツ用品の準備をする。 ②運動部を充実させ、生徒の体力向上を図る。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 66.4%(昨年度より 3.1ポイント↑)で目標を 3.6ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・球技大会等の実施や外用スポーツ用品の準備を行い、スポーツに関わる習慣を身に付けさせる。
		A 13 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、好き嫌いなく給食を食べている」⇒生徒の肯定的回答 80%以上	①学級活動、PTA食育研修会、親子調理教室などで、健康保持・増進の食事について正しい理解を図る。 ②学級懇談、保護者会で食育活動推進の協力依頼をする。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 76.6%(昨年度より 4.6ポイント↑)で目標を 3.4ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・食育だよりや親子料理教室などを継続し、栄養指導や食育活動推進に努める。
		B 3 健康・体力の維持・増進に努めている。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は健康を考えて行動している」⇒生徒の肯定的回答 80%以上	①避難訓練（地震・火災・不審者等）や交通安全教室を実施し、安全に行動する習慣を身に付けさせる。	C	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 91.0%(昨年度より 2.1ポイント↑)で目標を 11.0ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・身体測定や新体力テストの結果から自己の健康について見直し、運動習慣を身に付けさせる。

学 習	A14 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」⇒生徒の肯定的回答80%以上	①話し合い活動や発表を授業に積極的に取り入れ、言語活動の充実を図る。 ②自主学習ノートの活用により、家庭学習の習慣化を図る。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は84.8%(昨年度より7.3ポイント↑)で目標を4.8ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・話し合いの基盤として思考を深めるために、各教科で共通して「書く時間」を意図的に設けていく。
	A15 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」⇒生徒の肯定的回答80%以上	①習熟度別指導や個に応じた指導を行い、基礎・基本の定着を図る。 ②自己評価を活用し、自分の学習を振り返り、落ち着いて学習に取り組ませる。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は77.3%(昨年度より0.3ポイント↓)で目標を2.7ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・「学習の心得」の内容の徹底や、地域学校園で設定した「学習のルール」の実践を図っていく。 ・落ち着いて学習に取り組めるような、教室環境の整備に努める。
本 校 の 特 色 ・ 課 題 等	B4 自分の考えを豊かに表現する力と豊かな心（関心・感動・感謝・思いやり等）の育成が図られている。 【数値指標】生徒へのアンケートの「生徒は、総合的な学習発表会や文化祭などで、充実した発表ができた。」⇒保護者の肯定的回答が80%以上	①学級経営における発表・発言の指導充実と教室掲示物等を活用しての表現方法の工夫を図る。 ②「総合的な学習の時間」での表現方法の体験と実践発表の質の向上を図る。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は92.4%(昨年度より1.2ポイント↓)で目標を12.4ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学級経営における発表・発言の指導充実と教科指導における作文活動を充実させ、表現力の向上を図る。 ・「総合的な学習の時間」で表現方法の指導を充実し、実践発表の質の向上を図る。
	B5 豊かな表現力を支える言語能力を向上させるため、読書の習慣化を図る。 【数値指標】教職員へのアンケートの「生徒は、朝の読書の時間・読み聞かせ・ブックトーク等を通して、読書に対する意欲を高めている。」⇒保護者の肯定的回答が80%以上	①利用しやすい図書室の環境整備と利用の促進を図る。 ②朝の読書の時間、読み聞かせ、ブックトーク等を実施し、読書に対する意欲を高め、読書の習慣化を図る。	A	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は68.9%(昨年度より6.9ポイント↓)で目標を11.1ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・「朝の読書」の時間が充実するよう、図書ボランティアを活用した読み聞かせやブックトークを計画的に行う。 ・図書だよりのHP掲載や、定期的な学級文庫の入れ替え、委員会活動の工夫による啓発活動を推進する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・教職員、保護者、地域住民及び生徒の全アンケート78項目中、27項目で昨年度に比べ肯定的回答の割合が高くなり、49項目で低くなった。特に、改善が見られた項目と課題がある項目は以下の通りである。一方、市中学平均値を上回った項目は59項目中16項目になったが、引き続き課題解決に向けた取組を継続することが肝要である。

～改善が見られた項目～

- 「生徒は、好き嫌いなく給食を食べる」

〔教職員 65.5% (5.5p ↑), 保護者 68.9% (2.4p ↑), 地域住民 87.5% (9.7p ↑), 生徒 76.6% (4.6p ↑)〕

- 「生徒は、授業中進んで話し合い、分かりやすく発表するなど、積極的に学習する」

〔教職員 69.0% (1.0p ↑), 保護者 74.3% (3.0p ↓), 地域住民 80.0% (7.3p ↑), 生徒 84.8% (7.3p ↑)〕

- ・「生徒は、総合的な学習の時間発表会等で、表現方法を工夫し、発表の質を上げる」

〔教職員 96.6% (4.6p ↑), 保護者 92.4% (1.2p ↓), 地域住民 100% (0p), 生徒 91.2% (6.1p ↑)〕

～課題がある項目～

○「教職員は協力し、生徒のよさを認め、熱心に指導する」

〔教職員 89.7% (10.3 p ↓), 保護者 83.6% (7.1 p ↓), 地域住民 96.7% (2.7 p ↓), 生徒 93.0% (0.7 p ↓)〕

○「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組む」

〔教職員 96.4% (0.4 p ↑), 保護者 55.9% (8.7 p ↓), 地域住民 66.7% (12.2 p ↓), 生徒 86.3% (4.0 p ↓)〕

・「生徒は、時と場に応じた言葉づかいをする」

〔教職員 82.8% (1.2 p ↓), 保護者 70.3% (2.4 p ↓), 地域住民 82.4% (6.9 p ↓), 生徒 83.2% (6.0 p ↑)〕

○「生徒は、休み時間や放課後などに積極的に運動する」

〔教職員 55.2% (24.8 p ↓), 保護者 77.4% (1.9 p ↓), 地域住民 91.7% (7.5 p ↑), 生徒 66.4% (3.1 p ↑)〕

・「生徒は、朝の読書・読み聞かせ・ブックトーク等を通して、読書への意欲を高める」

〔教職員 82.8% (1.2 p ↓), 保護者 68.9% (5.9 p ↓), 地域住民 73.7% (17.2 p ↓), 生徒 65.6% (8.6 p ↓)〕

【学校運営の状況】

・明るく活気のある学校が維持できるよう、生徒とのコミュニケーションの機会を多くし、個に応じた支援を工夫する。〈学校運営〉

・教職員は、協力体制の中で、校内公開授業（一人一授業）の充実や生徒に関する情報交換の充実により、より個に応じた支援を行うための指導力を高める。〈学校運営〉

・生徒が授業などで進んで話し合ったり、発表したりする学習を、熱心に行う傾向が高まったので、その頑張りを保護者や地域住民等に適切に情報提供する。また、教職員が生徒とともに熱心に取り組んでいる「いじめ0」のための取組についても積極的に情報提供を行う。〈学校運営〉

・「分かる・できる授業」「活気あふれる授業」を展開するために「一人一授業」を実践し、教材研究・授業研究を通し個々の教員の授業力向上を図る。〈学習〉

・全生徒が落ち着いて学習に取り組める規律と環境を整える。〈生活〉

・「いじめ防止基本方針」を広く公表するとともに、全教職員が、保護者や関係機関と協力しながら、積極的にいじめ防止の活動および発生時の的確な対応を行い、生徒一人一人が明るく学校生活を送れるようにしていく。〈生活〉

【教育活動の状況】

・授業中の話し合い活動や発表などがさらに深化するよう、話し合いの基盤を充実させるため各教科で共通して「書く時間」を意図的に設けていく。〈学習〉

・落ち着いて学習に取り組めるよう「学習の心得」や「学習のルール」を徹底し浸透を図っていく。〈学習〉

・時と場に応じた言動を身に付け、活気ある学校づくりを推進する。〈生活〉

・生徒の生活に細かな目を向け、より良い生活が送れるように支援していく。〈生活〉

・球技大会を実施し、多くの生徒がスポーツをする機会が増えた。さらに健康、体力の増進のために各種検診・調査の結果に触れながら指導を行う。〈健康体力〉

・食育だよりの発行や栄養指導を行い、食と健康についての関心が高まり、昨年に比べ残菜が大きく減った。今後も継続して栄養指導を行う。〈健康体力〉

【本校の特色・課題等】

・「朝の読書」の時間の充実や読書の習慣化を図るため、図書ボランティアの活用や図書だよりのHP掲載など、啓発活動を推進する。〈学習〉

・総合的な学習発表会や文化祭などの多くの場面で、発表内容や発表の仕方の指導を充実させ、自分の考えや意見を表現させる機会を増やす。〈生活〉

6 学校関係者評価

○書く力や発表する力を伸ばすには

- ・学校の方針として、書く力や発表する力を伸ばしていく上で、国語だけでなく各教科で力を伸ばしていこうとする方針に賛同する。書く力を上げるため、各種作文コンクール等に応募し、励みにさせるとよい。
- ・書く力には、読む力がかなり影響すると思われる。書くためには、語彙数などが多くないとダメなので本を読むことの大切さを理解させたい。また、発表することは特別なことではないという感覚を身に付けてさせてくれるとよい。
- ・この地域の子ども達は、自分の考えをきちんと言う習慣が十分でないので、小学校のころから習慣付けることが大切である。また、そのためには読書量を増やすことが必要である。
- ・今の大人の時代に比べれば、子ども達の発表の機会は非常に多い。今後、社会では発表する力が大切であるから、学校に書く力や発表する力を向上させてもらうことを大いに期待する。
- ・小学校では、書く力を付けるために作文指導でもただ花丸を付けて称賛するのではなく、助詞の使い方や主語・述語等の関係を教師が正しく直した後、掲示等をして称賛を与えている。大変だが細やかな指導・助言は大切にしていきたい。

○学校が行っているいじめへの対応を保護者や地域住民により一層理解を図るために

- ・学校がいじめや嫌がらせ事案に迅速かつ丁寧な対応をしてくれていることが分かり、安心した。子どもの気持ちや人権を大切にする観点で、学校・家庭・地域の連携の必要性は大きい。そのため、学校のいじめ等に対する基本的な取組や学校・家庭・地域の連携の必要性を今まで以上にPRしてもらいたい。
- ・実際にあったいじめの具体例を紹介することは問題点が多いので、いじめの予防や対処に対する学校の基本的な態度を知らせるようにするとよい。いじめ対策の取組は、いろいろな視点でこまめに発信するとよいのではないかな。
- ・いじめに関する地域の人たちの無責任な話は悪影響があるので、地域でも意識を高め連携することが必要である。

○休み時間などに外に出て運動する生徒が少ないことについて

- ・昼休みの時間は決して長いとは言えないので、おしゃべりをして過ごすなど無理に外に出なくても心配しなくてよいのではないかな。
- ・地区の小学校によっては「長縄跳びの団体戦」など休み時間を利用した運動を継続しているところがあるので、中学校でも生徒会などが企画の中心となって小学校の経験を生かした活動が考えられるとよい。

○給食等、栄養バランスなどを考えた食事がなされているか保護者の理解が十分でないことに対して

- ・給食を保護者にも食べてもらう機会があってもよいのではないかな。また、お弁当の日を有効に活用し、親子でさらに食事の在り方について考えるのがよい。
- ・好き嫌いが目立つ子どもがいるので、大人が少しでも多く食べられるように助言していきたい。

☆子どもたちの表現力を向上させるために

- ・自由に表現する場をつぶさないでほしい。また、自由な発想はできるだけ否定しないでほしい。しかし、学校は常識ある社会人を育成していくことが大きな役目であるから、社会常識としてのきまりやけじめのある自由な表現・発想であるべきである。

☆読書に対する意欲の向上について

- ・学校の方針にも示されているように、生徒会専門委員会との関連は有効だと考える。そのために図書ボランティアと図書委員が話し合う機会があるとよい。
- ・学校図書館の利用は多いようだが、地区の図書館の利用がもっと多くなるとよいのではないかな。
- ・書く力や発表する力を伸ばしていくために読書が有効であることから、各教科の授業でさらに利用を進めるとよい。
- ・新聞を読むことも読む力を向上させるには効果的である。学校図書館に新聞を置くなど読ませるための環境づくりができないだろうか。たとえば、地域協議会の予算を活用して新聞を準備してはどうか。

☆その他の事項について

- ・スマホなどの利用時間やマナーなどについて学校でも指導を続けてほしい。
- ・学校全体に活気があり、明るく生き生きとした雰囲気があると答えている教職員・保護者・地域住民・生徒の割合がすべて90%を超えているのが何よりである。子ども達にとって居心地のよい学校であることがすばらしい。
- ・中学校の地域協議会で出された意見は、地区の小学校にも大いに当てはまる内容である。ぜひ、小学校でも中学校の課題を自校の課題と捉え、具体策を考えたい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○「授業中進んで話し合い、分かりやすく発表するなど、積極的に学習する」という生徒が増加しているので、教職員は協力し、生徒のよさを認めながら、書く力や発表する力を向上させられるよう熱心に指導していく。

・教職員は、協力体制の中で「分かる・できる授業」や「活気あふれる授業」を展開しながら、校内公開授業（「一人一授業」）の充実や生徒に関する情報交換の充実により、より個に応じた支援を行うための指導力を高める。

・書く力や発表する力の育成に力点を置いた「一人一授業」を実践し、教材研究・授業研究を通して個々の教員の授業力向上を図る。

・総合的な学習発表会や文化祭などの多くの場面で、発表内容や発表の仕方の指導を充実させ、自分の考えや意見を表現させる機会を増やしたり、表現方法を工夫させたりして、発表の質を上げる。

・学校の方針として、書く力や発表する力を伸ばしていくため、国語だけでなく各教科・領域で具体的な実践を行っていく。たとえば、授業中の話し合い活動や発表などがさらに深化するよう、話し合いの基盤を充実させるため各教科・領域で共通して「書く時間」、「発表する時間」を意図的に設けていく。

・落ち着いて学習に取り組めるよう「学習の心得」や「学習のルール」を徹底し浸透を図っていく。

・この地域の子ども達は、自分の考えをきちんと言う習慣が十分でないので、小学校のころから習慣付けることが大切であり、小学校で実践している「書く力を付けるために作文指導でもただ花丸を付けて称賛するのではなく、助詞の使い方や主語・述語等の関係を教師が正しく直してあげた後、掲示等をして称賛を与えている。」などの細やかな指導・助言の在り方を中学校でも踏襲していく。

・生徒が授業などで進んで話し合ったり発表したりする学習を熱心に行う傾向が高まっているので、これまで以上にその頑張りを保護者や地域住民等に適切に情報提供する。

○学校は、いじめ・嫌がらせ事案の対応や防止対策を熱心に取り組んでいるが、保護者や地域住民等にも理解してもらえるよう具体的な取組を行う。

・これまで通り、全教職員が、保護者や関係機関と協力しながら、積極的にいじめ防止の活動および発生時の的確な対応を行い、生徒一人一人が明るく学校生活を送れるようにしていく。

・本校の「学校いじめ防止基本方針」を広く公表するとともに、教職員が生徒とともに熱心に取り組んでいる「いじめ0」のための基本的な取組の概要等について積極的に情報提供を行う。

・子どもの気持ちや人権を大切にする観点で、学校・家庭・地域の連携の必要性は大きい。そのため、学校のいじめ等に対する基本的な取組や学校・家庭・地域の連携の必要性を今まで以上にPRする。

☆「時と場に応じた言葉づかいをする」生徒を育成する。

・学校では、全生徒が落ち着いて学習に取り組める規律と環境を整え、時と場に応じた言動ができるよう指導・助言を行い、活気ある学校づくりを推進する。

・家庭や小学校との連携が必要不可欠であることを考え、小中一貫教育学校生活適応部会などで話し合いをもち、小中学校合同で協力して実践する具体策を検討する。

○休み時間や放課後などに積極的に運動する生徒を増加させる。

・生徒会主催の球技大会などを企画させ、多くの生徒が昼休みなどにスポーツをする機会を増やす。さらに健康・体力の増進のために各種検診・調査の結果に触れながら生徒一人一人への指導・助言を充実する。

・地区の小学校によっては「長縄跳びの団体戦」など休み時間を利用した運動を継続しているところがあるので、中学校でも生徒会などが企画の中心となって小学校の経験を生かした活動を考えさせる。

☆生徒の読書に対する意欲を高める。

・「朝の読書」の時間をこれまで以上に確保する。具体的にはこれまでの「朝の学習」は休止し、「朝の読書」の時間に充てる。

・読書の習慣化を図るため、図書ボランティアの活用（読み聞かせ、ブックトーク等）や図書だよりのHP掲載など、啓発活動を推進する。

・生徒会専門委員会との関連は有効であるので、図書ボランティアと図書委員が話し合う機会を積極的に設ける。

☆その他の事項について

・これまで通り明るく活気のある学校が維持できるよう、生徒とのコミュニケーションの機会を多くし、個に応じた支援を工夫する。

・生徒の生活に細かな目を向け、よりよい生活が送れるように支援していく。たとえば、スマホなどの利用時間やマ

ナーなどについても学校で指導を続けていく。

- ・地区の小中学校で出された課題は多くの部分で共通であると認識し、小中学校間が十分な情報交換や協議を行い、具体策を考える。
- ・生徒が、好き嫌いなく給食を食べられるよう食育だよりの発行や栄養指導を行い、食と健康についての関心を高める。